

10/11 国際カミングアウトデー

今回のニュースレターでは、カミングアウトをテーマに取り上げてみたいと思います。10/11はNational Coming Out Day(全国カミングアウトデー)とされており、カミングアウトを祝い、前向きに支援していこうという日です。

1974年10月14日にハーヴェイ・ミルク氏が凶弾に倒れ、1年後に首都ワシントンD.Cで国家規模のプライドマーチが開催されました。全国から75,000~125,000人もの人が集まったそうです。第2回目のプライドマーチは1987年10月11日、エイズ禍における政策問題、ソドミー法(同性のセックスを犯罪とみなす法律)の違憲性をめぐる裁判が最高裁まで行っていた背景もあり、米国各地で4か月にわたって一大ムーブメントが広がっていました。

ワシントンマーチに参加した心理学者のロバート・アイヒベルク氏とレズビアン活動家ジーン・オリーリ氏によって1988年10月11日をNational Coming Out Dayとしようと提唱されました。ストーンウォール以来の大規模な運動で、全国規模のイベントとして成功したワシントンマーチを記念し、6月のプライド月間だけでなくもう一つのプライドを祝う契機となりました。

カミングアウトデーでは、学校やコミュニティなど様々な場所で、展示や集会、パレードなどのイベントが行われ、身近な場所に、そしてどこにでも、性的マイノリティがいることを訴えています。

日本では2017年から10月11日のカミングアウトデーに企業向けセミナー「work with Pride」が開催されるようになり、2020年10月11日には「プライドハウス東京レガシー」がオープンしています。

出典: [カミングアウトデー | Magazine for LGBTQ+Ally - PRIDE JAPAN](https://www.outjapan.co.jp/pride-japan/glossary/ka/5.html)

<https://www.outjapan.co.jp/pride-japan/glossary/ka/5.html>

～コラム～

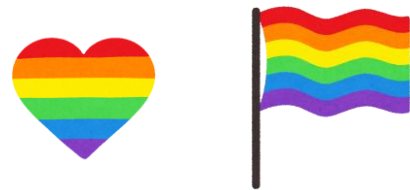
え？レインボーフラッグって7色じゃないの？

「虹だから7色でしょ？」って思いますよね？でも、性的少数者の象徴であるレインボーフラッグは6色なんです。

もともとは、アメリカで初めてゲイを公表して当選したサンフランシスコ市議のハーヴェイ・ミルク氏が性的少数者の象徴として旗を創ろうと、ギルバート・ベイカー氏に依頼したことがきっかけでした。1976年にデザインされ、1978年6月28日のサンフランシスコのパレードで初めて公開されたのです。

当初は、8色でしたが生地の調達などの問題から6色に変更されて現在のデザインに定着しました。上からレッド(生命)、オレンジ(癒し)、イエロー(太陽)、グリーン(自然)、ネイビー(調和)、パープル(精神)です。当初はこれにトップにピンク(性)、ネイビーの上にターコイズ(芸術)の2色がありました。

たまーに逆さまに設置してしまう方もおられるので、ご注意くださいね。



カミングアウト アウティング ゾーニング ってなんだろう??

カミングアウトは、自ら他者に自分のセクシュアリティについて伝える行為であり、基本的には信頼を置ける相手に対して行われるものです。意図せずに、カミングアウトせざるを得ない状況になる場合も、時にはあるかもしれませんが、基本的には他者との関係性をより良くしていく為のものです。

それに比べて、本人の同意なしに相手のセクシュアリティを暴露する行為をアウティングと言います。アウティングにより、痛ましい事件(一橋大学アウティング事件など)に繋がりがかねないので、不用意にアウティングすることは決してしてはいけません。居場所を失ったり、信頼関係が崩壊してしまったり、閉じこもってしまったり、自傷行為をしてしまったり、精神的バランスを崩すことがあります。

また、どの範囲までをカミングアウトしていくか考えて行動することをゾーニングと言います。学校や会社、友だちや家族の中で誰までに伝えたいか、伝えても大丈夫か当事者は繊細に考えています。知られたくない相手にも知られるのではないかと不安を抱えながら生活していくことは、非常にストレスが掛かります。

バレないように、身振りや言葉遣い、持ち物などありとあらゆるところでの注意を払いながら、只々緊張の中で、大切な友だちや家族や同僚が隣で過ごしているかもしれません。あなたならば、どうしますか？

映画『ぼくが性別「ゼロ」に戻るとき』 常井美幸監督 より

『ぼくが性別「ゼロ」に戻るとき ～空と木の葉の9年間～』（通称「ぼくゼロ」）川越での上映を終えて

8月、映画館「川越スカラ座」さんでの2週間の上映が無事おわりました。緊急事態宣言の中での上映となりましたが、スカラ座さんからは「お客さんの反応がとても良かった。老若男女、常連さんだけでなく新規のお客さんも来てくれた。感想などお寄せいただき、関心の強さが際立った」とのコメントをいただきました。上映後の講演会では、川合善明・川越市長のご挨拶のあと、レインボーさいたまの会の加藤岳代表はじめ、LGBT 結婚式ができる最明寺の千田明寛副住職、「ぼくゼロ」を教材として使ってくださっている自由学園の高野慎太郎先生が登場。川越から始まるダイバーシティのうねりについて、どう共生社会を実現するかについて熱い議論が繰り広げられ、観客からは鋭い質問が飛び出すなど、大いに盛り上がりました。

この映画は性別をモチーフにしていますが、性別のことだけを描きかけたわけではありません。男と女だけではなく、いろいろな性別の形があることを描くことで、カテゴリーや枠から自由になれたらと思っています。

私もこれまでの人生の中で、生きづらさを感じたり、周りとうまく調和できなかった体験があります。映画をつくる過程で、自分の心のなかの枠を外し、本当の自分らしさの意味を知ること、少しずつ楽になってきました。

人はみな違うんだということを前提に、それぞれが「自分らしさ」を表現し、互いにその違いを楽しむことができれば、私たちみんなが居心地よく生きられる社会が作れるんじゃないかな、ひとりひとりが自分らしい生き方を問い直してみることで、それぞれの心の居場所を見つけられればいいな、と思ってこの映画を作りました。

そんな映画を、官民合わせてダイバーシティに真っ向から取り組む川越で上映できたこと、心から嬉しいです！

「ぼくゼロ」監督・常井(とこい)美幸

公式ウェブサイト：<https://konomi.work>

YouTube チャンネル：<https://bit.ly/3dGvt7e>



映画『ぼくが性別「ゼロ」に戻るとき』
あらすじ(公式 HP ものがたり より抜粋)

大切なのは、つねに「ゼロ」であること。
こうあるべきという衣をはがして、自分と出会う。

男でも、女でもない、自分と。
世界でたったひとりの自分と。

6 歳。活発な女の子。初めて違和感を感じる。

12 歳。セーラー服を着るのが嫌で登校拒否。

14 歳。中学校に、男子生徒として通うことを認めてもらう。

16 歳。男性ホルモンを打ち始め、声が低くなる。

18 歳。胸を切除する手術を受ける。

20 歳。子宮と卵巣を切除する性別適合手術を受ける。

その後の展開は、、、映画をご覧ください

彩乃菓-AYANOKA- 代表取締役社長 小島 淳一様より



① レインボー上生菓子について

2 年程前になるとと思いますが、当時 LGBTQ の啓蒙活動をされていた友人である最明寺の千田副住職から、活動の一環として実施するイベントを記念した和菓子を創作して欲しいという相談が有りました。和菓子には、季節や文化を表現するという役割も有ると思い、また和菓子という伝統的なものに変化をもたらす 1 つの革新の為のチャンスの機会としてとらえて創作することを決めました。

レインボーカラー、花手水、最明寺というキーワードを踏まえたことで、イベント自体を和菓子を通してアピールすることが出来て、とてもお客様に好評頂きまして、当初の 100 個限定が早期に完売となり増産をさせて頂き、それも数日で完売することとなりました。

② レインボー饅頭について

映画の川越スカラ座での上映が決まったことから、常井監督ご自身が上映の機会に地元川越で性のダイバーシティの機運を高めていきたいとの思いをお電話でお話し頂き、そのことに共感を覚え、和菓子に表現することでお客様にもこの思いを伝えていきたいと思いました。地元川越では、当店以外にも最明寺や老舗和菓子店の龜屋など LGBTQ の活動を支援している寺院やお店も有り、街全体として広くダイバーシティを目指していけたら良いなと日頃から思っています。今回のお菓子を通常から販売することで、その思いを少しでも伝えていきたいです。

彩乃菓 〒350-0066 川越市連雀町 10-1 Facebook はコチラ⇒

2 階がカフェになっています。小江戸川越にお出掛けの際はどうぞ。



わたしのカミングアウトストーリー その1

彩 蝶衣さん

「私も FTM なんです！」
そう言った瞬間、目の前の「FTM」は絶句し目を合わせてくれなくなった。



これは、初めて参加したプライドパレードで起きたことである。

私はパレードをととても楽しみにしていた。「仲間に会える」当時は無邪気にもそう信じていたのだ。だが実際は、真っ先に行った FTM(出生時の性別は女性、性自認は男性)のブースでこのようなことになった。

当時の服装を思い出してみる。詳しくは覚えていないが、ドレスのような、世間一般では「女性的」とされる装いだったと思う。つまりとても「性自認が男に見える」ような見た目ではなかった。化粧もしていたし、ヘヴィメタルの影響で髪もスーパーロングだったので、どこを見ても「男らしく」はなかった。深く考えず好きな服を着ていた私は「仲間」の反応に強いショックを受けた。

早い段階で「当事者＝仲間」という幻想が砕かれたのはよかったと思う。

パレードでの一件以来、私は FTM に FTM だとカミングアウトするのが怖くなった。性的マイノリティ当事者の集いでは黙っていれば MTF や女装者、X ジェンダーだと思われることが多かったので、そのまま通すようになった。自分の性格や振る舞い、服装上、そう思われた方が「都合が良かった」。時間が経ち、レインボーさいたまの会の集いに初めて行ったときも「トランスジェンダー」とだけ説明した。

今も作家としての Twitter アカウントでは性別・性自認を公言していない。女性作家が圧倒的に多いジャンルでは女性のような男性か、中性「的」と思われた方が「都合が良かった」。FTM/トランス男性とカミングアウトすれば様々な説明を求められるだろうから。どうして男なのに髪が長いのか、どうして化粧をするのか、どうして女性ものの服ばかり着るのか……髪の長さは「デスメタルが好きなんだよ！」で通せばいいとしても(実際、メタル界は長髪男性だらけ)、他の説明をするのはうんざりだった。それにメディアに出ている FTM を見ていると、カミングアウトすればパレードの時と同じような目に遭うのではと思っていた。

しかし最近、どういうわけか、自分をさらけ出したいようになってきたのである。

性別に関する情報を意図的に隠す。たったそれだけのことが、作家活動の足枷(あしかせ)になってきたのだ。フィクションを書くならまだいいが、ことエッセイやブログになると、非常に面倒臭いのである。

性自認に疑問を持ち始めたのもある。私の性自認はおそらく「男性」だが、男性とは？ 性別とは？ 性自認とは？ 色々考えるうちに、男女の間をたゆたうような生活を送っているうちに「男性」と断言できなくなってしまったのだ。「(世間からすれば)男らしくない・男に見えない」からというもある。「性自認＝その人の性別」で通せるほど、この社会は優しくない。「当事者のリアル」をうたった冊子に、私のような FTM はいなかった。

だからこそ、私のような人間もいるのだという声を上げたくなったのだ。

どのような方法で声を上げるのか、具体的なことはまだ何も決まっていない。決めようとするよりも何かやってみよう、ひとつひとつ、手探りでやってみようと思った。そのときに、このニュースレターの依頼を頂戴した。

性自認を断言できなくなったということを含め、今の私について多数の人にきちんと説明するのはこれが初めてだ。会員の中にはトランスジェンダー当事者も、FTM/トランス男性もいると思う。もし、不快にさせてしまったなら、申し訳ない。ただ私のような FTM 当事者がいることも、どうか知っていてほしい。質問があれば出来る範囲で真摯に答えさせていただきたい。

最後までお読みくださり、ありがとうございました。

以上で、私のカミングアウトを終わります。



わたしのカミングアウトストーリー その2

稲垣 晃平さん

私は、姉三人、兄一人の五人兄弟の末っ子として、生を受けました。姉達三人から言わせると、昔から女の子みたいな仕草もあったそうですが、小学生、中学生の頃は女性とお付き合いをした事もありました。しかし中学生頃から男性に対して、「あの男の子格好いいな」と言う気持ちが芽生えてきました。そして次第に視線は、男性だけに向くようになりました。



高校生になり、同級生にも彼女ができはじめ、周りから自分がゲイであることを勘付かれるのが怖かったと言う思いから、一度だけ、女性とお付き合いをしました。しかしもう既に、完全に男性しか愛せない自分が形成されていた為、付き合ってもすぐにお別れをしました。その方に対しては、申し訳ないことをしたなど、今でも思っています。

その後、社会人となりました。最初のうちは、自分がゲイであることは、一部の友人や、FTMの親族には話していたものの、それ以外の人にはひた隠しにして、生きてきました。

しかしその中でも葛藤があり、普段から親しくしてくれている、中学時代からのストレートの親友にも隠しておくのはどうなのか...と、悩んでいました。これからも何でも話せる仲間であってほしいなら、自分も正直に話をしなければいけないだろうと思い、カミングアウトを決めました。

二人でお酒を飲みながら語っている中、「ちょっと真面目な話がある」と切り出したものの、「言っただけで、嫌われてしまったら...」との不安から、沈黙が続き、話をする前から、不安で涙が止まりませんでした。

時間をかけ、やっとの思いで正直にカミングアウトをすると、親友から、「ふーん、それで？」と返されました。そして、「お前がゲイであろうがなんだろうが、親友には変わらないし、お前はお前だし、それで離れていく奴がいれば、それまでだろ。」と言われました。

不安でいっぱいだったのですが、その言葉を聞いてすごく嬉しかったですし、良い仲間を持ったなと思いました。なにより、『一人の人間であって、もっと堂々としていてもいいのかな』とも思わせてくれました。親友には、本当に感謝しています。

そこからは、両親をはじめとする親族、友人達、職場の方達などにも正直に話をし、パートナーと共に、楽しく生きています。全ての人が、ありのまま、堂々と生きられる世の中になりますように…！



第3回にじいろシネマ「マーシャ・P・ジョンソンの生と死」開催

令和3年度さいたま市男女共同参画推進センター公募型共催事業として実施しております、オンライン映画鑑賞会「にじいろシネマ」(4回シリーズ)についてご案内申し上げます。

弊会が実施する「にじいろシネマ」は、性的マイノリティを題材とした映画を鑑賞し、鑑賞後にディスカッションを行うことで、当事者たちが未だに直面する差別や偏見などの具体的な課題について考え、問題意識を共有することを目的としています。

11月27日に実施する4回シリーズの第3回目では、伝説的なトランスジェンダー活動家を扱ったドキュメンタリー作品『マーシャ・P・ジョンソンの生と死』を上映いたします。本作品は、2017年トライベッカ・フィルムフェスティバル、シアトル国際映画祭、サンフランシスコ国際LGBTQ映画祭を始め、多くの映画祭で公式招待作品として上映され、ロサンゼルスOUTFEST映画祭で特別賞、GAZE国際LGBTQ+映画祭でドキュメンタリー部門賞を受賞しました。

女装をしているというだけでトランスジェンダーが社会や警察から不当な暴力や扱いを受けていた時代に、LGBTQ+の人権を求め声を上げた人々の中でも社会に大きな影響を与えた活動家マーシャ・P・ジョンソン。本作品では、トランスジェンダー活動家のビクトリア・クルスが出演し、マーシャの波乱に満ちた生き様と、未だ解明されない不審な死の真相をつきとめようとする姿を、カメラが追いかけていきます。長年様々な暴力に晒され社会の制度からも見捨てられた多くのトランスジェンダーと同様に、マーシャも精神的困難や貧困とも戦っていました。それでもなお、LGBTQ+の人権のために戦い続けた活動家の原動力は何だったのか、マーシャの死後30年の時を経て何が変わり、何が変わっていないのか。本作品を通じて、LGBTQ+当事者たちがたどってきた道を知ることは、SDGsの目標実現の展望に向けて一筋の希望の光を投じるに違いありません。

上映後には、参加者同士で感想を共有し、映画が問いかけるテーマについて理解を深める時間をもうけます。映画を通じて性的少数者に関する課題に接することで、彼/女らの問題を「自分ごと」として捉えることを目標とします。性的少数者を取り巻く社会問題だけでなく、よりよい地域社会をつくることに関心のあるみなさまのご参加をお待ちしています。

※2020年2月1日に、ニューヨーク知事アンドリュー・クオモはブルックリンのイースト・リバー・パークをマーシャの功績を称えて「マーシャ P. ジョンソン州立公園」と改名することを発表しました。また、マーシャを讃えるモニュメントがグリニッジ・ヴィレッジのストーンウォール・インの近くに設置されることが発表され、2021年中に完成する予定です。

【上映作品】 『マーシャ P ジョンソンの生と死』

監督 デヴィッド・フランス(2017年製作/105分/アメリカ/ドキュメンタリー)

◇公式webサイト：<http://www.marshapjohnsonmovie.com/>

【開催日】 2021年11月27日(土)14:00~16:30

【申し込み】 PeatixのHPより ※右記のQRコードからお進みください。

【参加費】 無料



編集後記

今回は、国際カミングアウトデーに合わせてカミングアウトをテーマに構成してみました。ちなみに、今年の国際カミングアウトデーに合わせて「狭山市パートナーシップ宣誓制度」が開始されたことをお伝えしたいと思います。これまで、埼玉県では18の自治体がパートナーシップ制度の導入を進めています。いつか、カミングアウトをする必要がなくなるくらい、多様な生き方をお互いに認め合う社会になることを期待しております。

Toshi



発行元
レインボーさいたまの会